



ものごとの 悪い側面

1月7日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

1月7日のおはなし「ものごとの悪い側面」

朝8時。

頭のとっぺんから足のつま先まで、残すところなくずぶ濡れになったカズオが庭に面したテラスに姿を現した。

「またなの？」私は悲鳴を上げる。「ちょっと待って。拭くまで入らないで」

入ってこようとするのをあわてて止めると、奥の収納にしまったバスタオルと足拭きマットをとりに行く。でも戻ってくるとカズオはいなくなっていた。家の中は濡れていないので、入ってきたわけではなさそうだ。変な奴、と思ったが毎度のこと、好きにすればいい。私に髪をごしごし拭かれるのがいやでもう一回り走りに行ったんだろう。

カズオは日課としてランニングをしているのだけれど、毎朝必ず土砂降りのシャワーに遭ってずぶ濡れになる。シャワーに遭わずに走り切れた試しがない。そんなカズオだけだ。他に聞いたことがない。毎朝のように少しずつ時間帯をずらしているらしいが、戻ってくると笑ってしまうくらい確実にずぶ濡れになっている。足下はぐしゃぐしゃにぬかるんで、太ももまで泥が跳ね、シューズの内側まで泥まみれになって。

私が「必ず降られるんだから、シャワーが終わってから走ればいいのに」とアドバイスしても、「それでは気温が上がりすぎる」とか何とか言って、結局雨が降り出す前に走りに出る。そしてシャワーに遭う。6時半に走ってもシャワーに遭い、7時半に走ってもシャワーに遭う。8時半に走ってもシャワーに遭い、9時半に走ってもシャワーに遭う。とても珍しい偶然だ。むしろカズオのランニングがシャワーを引き起こしているんじゃないかとさえ思う。濡れ鼠になって泥まみれになった惨めな男を見て、悪いけど私は毎朝大笑いをする。

今年になって始めた下宿には、いま5人の外国人がいる。ずぶ濡れランニングの1件があるので、なにしろカズオの印象はとにかく強い。ほかの4人にしても、ゲームマニアの本土の人や、軍曹タイプの韓国人、おしゃべり好きなインド人、それに役者志望のニュージーランド人など、わりとアクの強いのがそろっている。いまから思えば、カズオなんて最初会った時はこれといって目立つところがなかったんだけど、いまや群を抜いて印象づけられている。なにしろずぶ濡れランナー、もしくは、シャワーを呼ぶ男だ。

2階から本土のカピンスキー氏が降りてきて「またカズオか？」と言ってテーブルについた。シリアルを箱を開け、ボウルにがしゃがしゃ入れ始めた頃、既に朝食を終えてスーツに着替えたインド人のラシュヒンドラン氏が「何よ何よあたり水浸しにしたりしてないだろうねツルッなんて転んだりしたらもう1日の始まりとしては最低だからね夜は食べて帰りますから」とまくしたてながら出かけて行った。カピンスキー氏はミルクをかけたシリアルをまずそうに口に運びながら「失敗したよ」とつぶやいた。

「何がさ」私は新聞をたたみながらカピンスキー氏を見た。「ベーグルなら、ないよ。あんたがタペPSPやりながら食べちゃったから」

「いやそうじゃない」カピンスキー氏はシリアルごときにすごく時間をかけて咀嚼を繰り返して、口をつぐんで何度かうなずいた。「朝と夕方にあの猛烈なシャワーを見るたび、どうして島のこっち側を選んじまったんだろうと思うんだ」

「濡れたTシャツがたくさん見られると思ったんじゃないの？」

「毎日2回もこんな激しい雨が降るなんて知らなかったんだよ」カピンスキー氏はボウルごと吹き飛ばしそうな勢いで大きくため息をついて、スプーンでしばらくシリアルをかきまぜた。「1年中からりと晴れ上がった楽園の島だと吹き込まれていたんだ」

「山の向こうはね」私は答える。「あそこに住んでる奴らはからりと快適な風とたっぷりのお日様を満喫してるよ」

「これじゃあくソツタレな故郷の方がまだマシだ」カピンスキー氏はうなり声をあげる。「おれはおれの田舎のあのおぞましいジメジメした気候におさらばしたくてここにきたのに」

「じゃあ、あっちに引っ越すんだね」私は彼が山向こうに住むほどの財力がないのを知っていて言ってやった。「毎日がリゾートだよ」

あっちのやつらばかり可愛がって、こっちの人間をひどい目に遭わせるなんて、神様の気まぐれが生んだ不公平だとずっと思っていた。そうではなかった。カズオが「それは海を渡る風と山のせいだ」と教えてくれ、初めて理由がわかった。海の上を渡ってきた湿った風が山に当たってそこに雲を作って山のこっち側にやけくそのように雨を降らす。雨に水分を奪われて乾燥した風は山を越えて爽やかに吹きおろし、山のあっち側を快適なリゾートに変える。

「何だってんで、デボラはこっちに住んでいるんだ？」カピンスキー氏は湿度の高いのがまるで私のせいみたいな口調で言う。「こっちに住んでいて何かいいことあるのか？」

いままではなかった。確かに、ろくな人生じゃなかった。でもまあ、いまはそうでもないと思う。

日本ではね、と話してくれる人がいる。その風を貿易風って呼んでいるんだ。みんなが寝静まった夜、食堂に降りて来て二人きりでおしゃべりする相手がいる。貿易風なら、私も言うわよ？

うん、本当は貿易とは関係ないらしいんだけど、知ってた？ そうなの？と私は聞き返す。私も貿易に関係あるのかと思っていたよ。おやおや。カズオは笑う。じゃあデボラは日本人といっしょだ、ちょっと前までのぼくと一緒だ。

「何をにやにやしてるんだ？」カピンスキー氏が最後の一口を呑み込みながら恨めしそうに言う。

「別に」上がりかけた雨のカーテンの向こうに走る人影を見つけて私は言う。「貿易風も、そう悪くないもんだよ」

お手上げだというジェスチュアをしてから食器をシンクに放り込み、カピンスキー氏が2階に上がって行く。私は足拭きマットとバスタオルを用意してテラスにたたずむ。

(「貿易風」 ordered by shirok--san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

ものごとの悪い側面

<http://p.booklog.jp/book/41898>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41898>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41898>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.